

公園の風景

～カヤネズミ 展示開始～

公園では、かねてより日本一小さいネズミとして人気のあるカヤネズミの「捕獲」と「飼育」の許可を行政に申請していたが、このたび「捕獲」について山口県から、「飼育」について山口市から許可を貰えることができた。これに伴いカヤネズミ飼育展示のためのゲージが整えられた。ガラス製の箱に枯れたワラを敷き、ベッド代わりに輪切りにした竹を置いて清潔な環境の中、2匹のカヤネズミが飼育されている。ゲージの下半分は夜行性のカヤネズミが昼間安心して生活できるよう目隠しの囲いがしてある。カヤネズミを観るときはそぉーっと覗いて下さい。



～ MAX /コギリガザミの昇天～

10月のある日、汽水池の近くを歩いていたノコギリガザミが公園職員により採取されました。ノコギリガザミはワタリガニ科ノコギリザリガニ属の総称で、インド、太平洋の熱帯域に生息する食糧にもなるカニです。甲羅がイチョウの葉に似ていて巨大な鋏脚を持っています。鋏脚は左右の大きさが異なり、細い鋏脚で貝などの餌を捕まえ、太い鋏脚で殻を砕きます。太い鋏脚には噛み合わせ部分に臼を思わせるような頑丈な丸い歯が並んでおり、その力は乾電池を潰してしまうと言われます。公園で捕獲されたノコギリガザミは甲長 130mm あり、捕獲の翌日死亡しました。公園のレンジャーによると最大の大きさまで育った末の昇天だろうとの診たてでした。海の生き物が汽水池にいたことについては、メガロパ（カニの幼生）時代のノコギリガザミが山口湾から公園の水門を通過して汽水池にやって来て、汽水池で大きく成長したものと考えられ、汽水池には他にも色々なカニが生息していると思われます。

